評価を実施する事業の一覧表（港湾整備事業）

No	都道府県名	事業名	事業概要	事業の必要性等に関する視点	事業の進捗の見込みの視点	コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	備　　考
①	岩手	大船渡港永浜地区 多目的国際ターミナル整備事業 【中心的施設】 永浜地区岸壁(-13m) 【関連施設】 永浜地区泊地(-13m) 埠頭用地 臨港道路	【事業目的】 船舶の大型化の要請及び既存の茶屋前ふ頭の老朽化に対応するため、多目的国際ターミナルとして永浜地区に岸壁(-13m)及び関連施設を整備することにより、物流の効率化を図るものである。 【計画概要】 ・永浜地区岸壁(-13m)１バース　等 ・事業費　　160億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　H6 ・工事着手年度　　H9	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・施設老朽化対応への緊急性の増大や、原油高の影響による物流経費削減への要請が高まっている。 【事業の投資効果】 ・B/C=1.5（全体） ・B/C=13.4（残事業） 【事業の進捗状況】 ・進捗率86% 【特記事項】 ・特になし	中心的施設の岸壁（-13m）については、平成20年度に完成予定。 関連施設のの埠頭用地及び臨港道路の整備についても、平成24年度完了に向けて順調に進捗する見込み。	地盤改良用の砂材として、地元産の砕砂を用いることでコスト縮減を図った。	再評価後一定期間が経過した事業 （再評価後５年）
②	山形	酒田港外港地区 多目的国際ターミナル整備事業 【中心的施設】 外港地区岸壁(-14m) 【関連施設】 外港地区航路(-14m) 泊地(-14m) 本港地区防波堤(南) 北港地区防波堤(北)(第二) 埠頭用地 臨港道路 荷役機械 上屋	【事業目的】 ・酒田港背後圏におけるコンテナ貨物等の物流需要や船舶の大型化に対応するため、多目的国際ターミナルとして外港地区に岸壁(-14m)及び関連施設を整備することにより、物流の効率化を図るものである。 【計画概要】 ・外港地区岸壁(-14m)１バース　等 ・事業費　　193億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　H4 ・工事着手年度　　H5	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・新興国の台頭による資源高や原油高の影響による輸送費の高止まりにより、物流経費削減への要請が高まってきている。 【事業の投資効果】 ・B/C=1.4(全体) ・B/C=2.3(残事業) 【事業の進捗状況】 ・進捗率77% 【特記事項】 ・特になし	岸壁（-14m）及び埠頭用地等は既に完了。 航路及び泊地並びに防波堤については平成31年度の完成に向けて整備を進める予定。	岸壁裏込材へ通常使用される石材に替えて、港内に立地する火力発電所から排出される石炭灰をセメントと混合して岸壁裏込材として利用することにより、コスト縮減を図った。	再評価後一定期間が経過した事業 （再評価後５年）
③	福島	小名浜港本港地区・東港地区 防波堤整備事業 【中心的施設】 本港地区防波堤（沖） 東港地区防波堤（第二沖）	【事業目的】 沖合航行船舶の避泊水域を確保するため、東港地区・本港地区に防波堤を整備することにより、海難による損失の回避及び輸送の信頼性の向上を図るものである。 【計画概要】 ・本港地区防波堤（沖）　　1140m ・東港地区防波堤（第二沖）　　860m ・事業費　806億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　S62 ・工事着手年度　　S62	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・平成20年度新規採択された東港地区多目的国際ターミナル整備事業へ重点投資するため、防波堤（沖）事業については事業の進捗を抑制している。 【事業の投資効果】 ・B/C=1.5（全体） ・B/C=2.4（残事業） 【事業の進捗状況】 ・進捗率53% 【特記事項】 ・特になし	東港地区多目的国際ターミナル整備事業が平成25年度に完了する予定のため、平成30年度完了に向けて平成26年度からさらに事業の進捗を図る予定。	当該施設は軟弱地盤上での施工となることから自然圧密工法の採用、技術開発によるケーソン断面を縮小等によりコスト縮減を図った。	再評価後一定期間が経過した事業 （再評価後５年）
④	福島	小名浜港5・6号ふ頭地区 多目的国際ターミナル整備事業 【中心的施設】 5・6号ふ頭地区岸壁(-12m) 岸壁(-14m) 【関連施設】 5･6号ふ頭地区泊地 埠頭用地 先端護岸 荷役機械 臨港道路	【事業目的】 ・石炭など鉱産品の需要が増加しており、滞船の発生など既存施設の能力不足が顕在化している。このため、多目的国際ターミナルとして６号ふ頭地区に岸壁(-14m)及び関連施設を整備することにより物流効率化を図り、また５号ふ頭地区岸壁(-12m)は、福島県内初の大型耐震強化岸壁として整備することにより、大規模地震時の緊急輸送拠点の確保を図るものである。 【計画概要】 ・岸壁(-12m)1バース ・岸壁(-14m)1バース 等 ・事業費　　186億円 【事業経緯】 ・事業化年度　　H6 ・工事着手年度　　H6	【事業を巡る社会情勢等の変化】 ・石炭、金属鉱などの鉱産品の需要が増大しており、当該施設の利用が急増している。 【事業の投資効果】 ・B/C=9.1(全体) 【事業の進捗状況】 ・進捗率100% 【特記事項】 ・特になし	－	－	事業完了後、一定期間が経過した事業 （事業完了後５年）